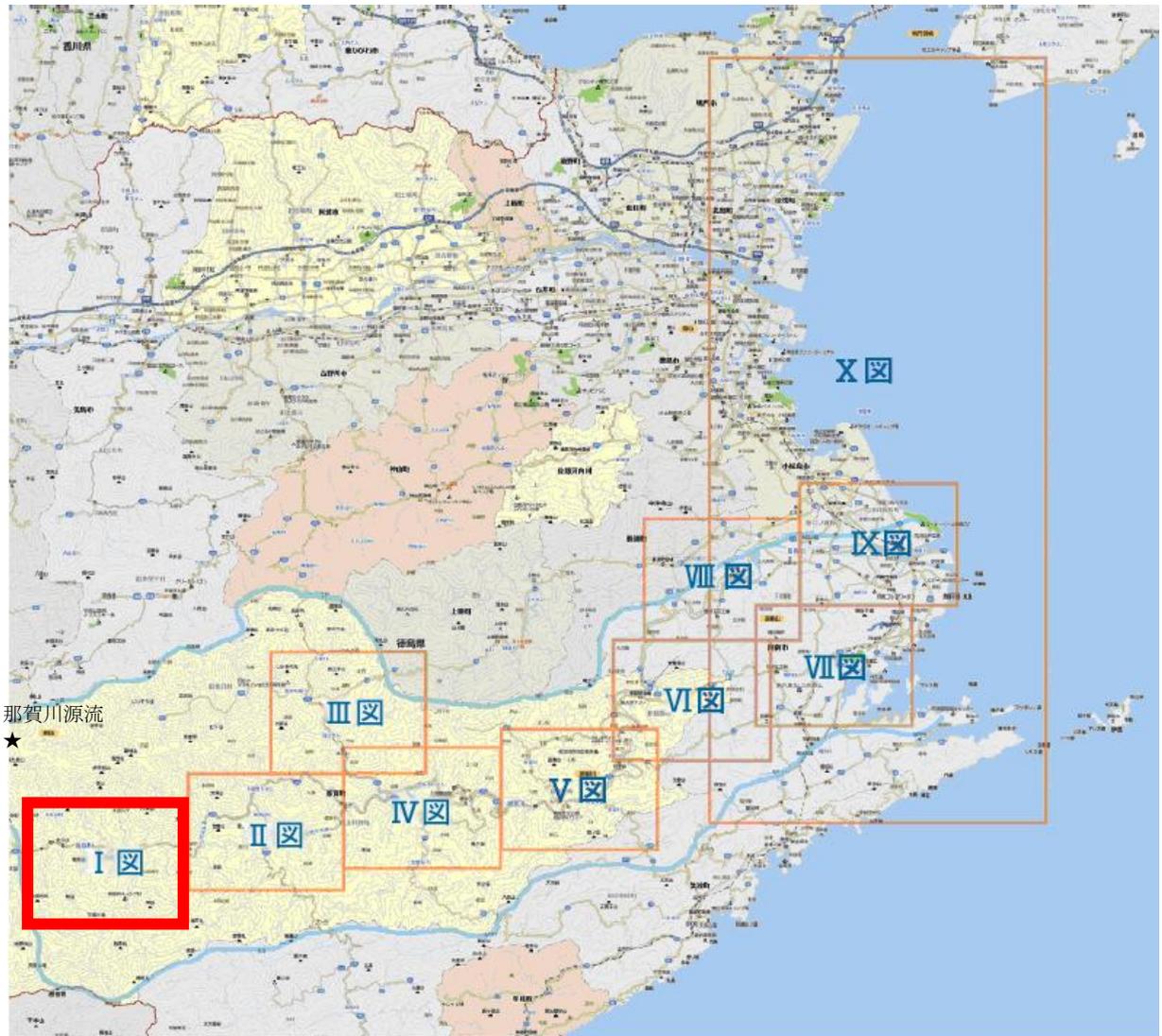


# 四国の那賀川を巡り訪ねる

第1号



ゆきかう那賀川推進会議



図番号	タイトル
I 図	那賀川上流と高の瀬峡
II 図	杉とユズの里・木頭
III 図	坂州木頭川と名瀑の里
IV 図	長安ロダムと高磯山の崩壊
V 図	大蛇伝説と瀬淵の物語
VI 図	仁宇谷の歴史と鷲敷ライン
VII 図	桑野川流域と津峯山
VIII 図	那賀川・水害の記憶
IX 図	那賀川河口と治水・利水の跡を訪ねる
X 図	徳島の海岸津波の伝説



## 第1章

# 那賀川上流と高の瀬峡

### ◇高の瀬峡

I 図 A2

#### 奇岩織り成す那賀川上流の渓谷

国道 195 号から剣山スーパー林道へ入ると、県観光百選の人気投票で第一位となった紅葉の名所・高の瀬峡があります。那賀川最上流部の深く切れ込んだV字型渓谷が延々と続いています。秋には両斜面の石灰岩の奇岩絶壁が赤や黄色に鮮やかに彩られ、豪華絢爛という言葉がぴったりの紅葉の錦となります。春には新緑、夏には青葉、冬には雪景色と四季折々の表情も魅力にあふれており、多く観光客が詰めかけます。

また、町道剣山線（スーパー林道）の対岸にある岩壁は、地元の人々から「日照礫」と呼ばれています。雨が降る前には黒くなり、晴れが続くときには白くなることから、一部の人々は日照礫を見て天候を予想したといわれています。



高の瀬峡



日照礫 (I 図 B2)

### 【那賀川コラム】

#### 剣山スーパー林道 I 図 A2

#### 日本一長い 87.7km の林道

剣山スカイライン構想は、土須峠ー別府山ー京柱峠を結ぶ延長 118.2km でしたが、スーパー林道着工の段階では、総延長 82km の構想となりました。昭和 60 年上勝町落合を起点とし木頭北川に至る、総延長 87.7km、総工費 240 億円で完成。日本最長の林道です。



町道剣山線(剣山スーパー林道)

## ◇久井谷の崩壊

## 豪雨による昭和 51 年の大崩壊

昭和 51 年（1976）9 月 11 日、17 号台風による豪雨によって那賀川上流域の木頭村、木沢村において、3,700 箇所にあつた大崩壊や地すべりが発生しました。木頭村日早で連続降雨量 2,576mm を記録し、なかでも那賀川支川の久井谷川の新九郎山（1,635m）の東斜面が崩土量 250 万 m<sup>3</sup> という大規模崩壊となりました。

現在は久井谷（ひさいだに）と呼んでいますが、40 年前ころまでは「ツエ谷」と呼称していました。「ツエ」とは崩壊という意味です。



久井谷川

## ◇船谷崩れ

I 図 D3

## 鉄砲水を出す無数の崩壊

北川地内の船谷には大小無数の崩壊があり、とくに鉄砲水を出すことで知られています。地元での聞きとりでは、大正年間、昭和 16 年、同 29 年、同 40 年に鉄砲水がありました。那賀川との合流点までの 1 km 以内の部分とはとくに広い河原をなし、その幅は那賀川本流のそれよりもやや広い程です。鉄砲水のたびに河原にあった材木置場が流され、ここに土石が堆積したといわれています。

## ◇八早谷崩れ

I 図 A6

## 八早山崩積層の二次崩壊

榑谷川の上流、八早山の西斜面を刻む支谷沿いにあります。昭和 40 年 9 月台風 23・24 号及び昭和 42 年 7 月台風 7 号に際して崩壊を生じましたが、地元では、明治年間以前より「はけずまり」という言い伝えがあります。

崩壊部分の上方に植生におおわれたやや平坦な土石の堆積地形があり、その背後に植生におおわれた大きなカーブ状の谷があり古い崩壊跡とみられます。すなわち、八早谷の崩壊は、崩積層の 2 次崩壊です。



榑谷川と那賀川の合流点付近

## ◇七間の滝

I 図 A3

## 蛇が守る塚とおかまの大蛇

久井谷川の奥にある荘厳な滝です。伝説によれば、平家の落武者がこのあたり（平家なる）に住み着いていました。ある日、下流に青菜の切れ端や豆の皮が流れ着いたため、山奥に人がいることを知られ、追手を向けられました。落人は討死し、一つの塚に埋められました。この塚には種々の宝物が埋蔵してあるため、三匹の蛇が常に守っているといわれています。

またこの滝にはもう一つ「おかまの大蛇」という伝説が伝わっています。久井谷の奥に七間の「おかま」という滝（七間の滝）があります。北川の谷屋敷の先祖が魚釣りをしていて、針に大蛇がかかって、襲いかかってきました。以後は決してくろがねの針は使わないからといって許してもらいました。今でもこの滝ではくろがねの針は使わないといい、谷屋敷の者はこの滝には近寄らないそうです。



七間の滝

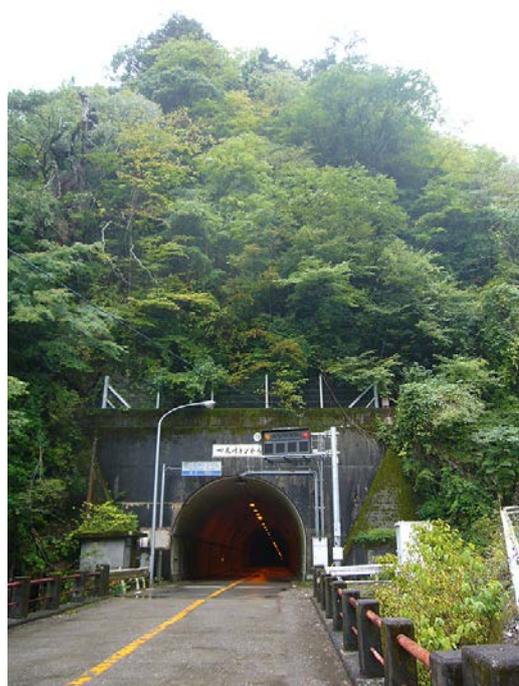
## ◇四ッ足峠

I 図 C1

## 県境に位置する四ッ足堂にちなむ

国道 195 号の旧木頭村と高知県香美郡物部村境に位置する標高 1,030m の峠です。県境（国境）をなすことから、傍示峠ともよばれます。峠名は県境に位置する四ッ足堂にちなみ、お堂の柱が二本ずつ県境を跨いでいるといわれています。四ッ足堂には地藏尊と思われる石像が祀られ、「一間四面の萱葺の小堂あり、行基菩薩の作なりと云ふ」と伝わっています。昭和 39 年（1964）に二車線の四ッ足峠トンネルが完成しています。

トンネル周辺の溪谷は紅葉の名所で、特に、本県側では高の瀬（こうのせ）峡、高知県側では別府峡が有名です。



四ッ足峠(トンネル)

## ◇大蛇を退治した宝久さん I 図 C3

## 村を助けた平家落人の武勇伝

昔、北川蔭の下は大きな滝で、月の瀬の所へ落ちていました。下込も大きな淵で、中に大小二つの丸山があって、この淵にその丸山を七巻半も巻くような大蛇が住んでいました。大明地の宝久さんという人が、九寸五分の短刀をくわえて、この大蛇を追い出したので、大蛇は船谷の橋の所へ移って住んでいました。それでも、まだ目につくので船谷の奥の方へ逃げていきました。下ごみの丸山は、蛇権現とって村人はお祀りしています。

宝久さんは平家の落人であるともいわれ、いまも「宝久さん」の名で大明地の森に祀られているそうです。正月七日が例祭です。なお、宝久さんの刀は「せきの刀」といって、祠の中に祀られていましたが、現在は確認されていません。



北川蔭集落

## 【那賀川コラム】

## ひげなし谷の由来 I 図 C4

ひげなし谷で老人夫婦が山作をしています。ある日、婆さんが後から弁当をもって行くことにして爺さん一人が先に出かけました。相当時間がたっても婆さんが来ないので、不思議に思って帰ってみると、大蛇が婆さんを呑みこんで谷の方へ行こうとするところでした。びっくりした爺さんは、大蛇を殺して婆さんを助けました。しかし、蛇の腹の中から助け出した婆さんの頭には一本の毛もなくなっていました。それからこの谷の名を「ひげなし谷」とういようになつたといひます。

また、この話には異説がいくつもあります。一つは、息子が村へ出かけて夕方帰ってくると、婆さんが蛇に呑まれていた。母の命を助けてくれれば、以後一切この谷では蛇を殺さないと神に誓ったので、今も谷では蛇を殺してはならないと言ひ伝えられている。もう一つは、二人が親子でないきりどうしになっている話もある。



髪無(ひげなし)谷

## ◇折宇の大蛇退治

I 図 B5

## 大蛇を退治した立明さんの武勇伝

昔、折宇のしもばんと言うところにある大きな池に一匹の大蛇が棲んでいました。人々は大蛇が怖くて、池の周りに広い土地があるのに、折宇谷や遠くのひさい谷やひげなし谷へ行ってアワやヒエを作っていました。

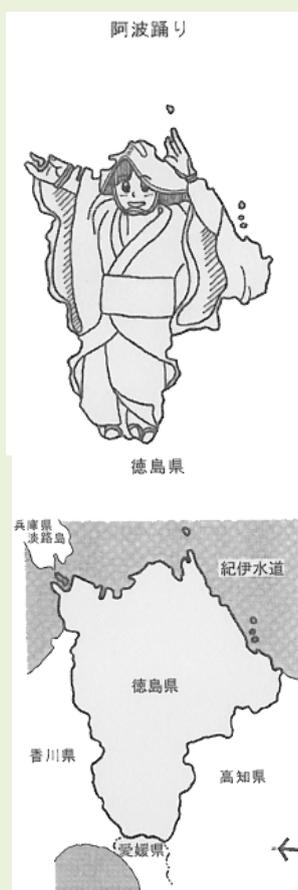
しもばんに立明さんという勇気のある人がいて、「よしみんなのために、退治してやろう」と考えていました。ある日、大蛇の棲んでいる池へ一人でかけていき、口に小刀を加え、池の中に入りました。するとゴボ、ゴボと大きい音がして、大蛇がぬっと首をだしました。二つの目玉は真っ赤な色をして、開いた口から赤くて長い舌がでてひらひら動いています。立明さんはゾーッとしましたが、負けてたまるかと、さっと体を沈めて大蛇に抱きつき、首をざくりと切りつけました。水の中に真っ赤な血が流れ出でましたが、それでも大蛇は胴体を立明さんの体に巻き付けてしめあげます。死にものぐるいで何度も何度も首を切りました。ついに大蛇の力がぬけずるとほどけました。その時、空がにわか曇り、大粒の雨がザーッとたたきつけて、あたりが夜のように暗くなりました。こわくなった立明さんは岸に泳ぎ着き、へとへとに疲れていましたが、必死に逃げて山にのぼって振り返ってみると、まっかな血の色に染まった池のなかに大蛇が沈んで行くのが見えました。立明さんは「とうとう大蛇を退治したぞ」と、躍り上がって喜びました。

それからしもばんの人は池のまわりの広い土地を耕して米や麦がたくさんとれるようになりました。立明さんが大蛇を退治して逃げるとき、踏み外した山道は高さ二〇メートルあまりの水のない滝のすがたで、しもばんに残っているそうです。

## 【那賀川コラム】

## 阿波踊り物語

徳島県といえば、誰でもまず思い浮かぶのが阿波踊りでしょう。徳島県のかたちは狸と共に、女性が阿波踊りを踊っている姿に見えます。阿波踊りは日本を代表する盆踊りの一つで、その踊りの形式から見て、もともと盆の精霊送りの道行の踊りから出たものと思われます。夜、男女が一組十数人の連を思い思いに作り、笛、三味線、太鼓、鉦などの囃しと「よしこの節」の歌にのって、縦隊のまま道々を激しい勢いで練り歩く「ぞめき（踊）」の形式をとっています。



## ◇那賀川源流

### 水の生まれる所、川の始まる所

那賀川は、剣山山系ジロウギユウ（標高1,929m）に発し、徳島、高知両県の県境山地の東麓に沿って南下した後、東に流れ、坂州木頭川、赤松川等の支川を合わせ、那賀川平野に出て、派川那賀川を分派し紀伊水道に注ぐ、幹線流路延長125km、流域面積874k m<sup>2</sup>の一級河川です。

那賀川源流には源流モニュメントと源流碑が建立されており、源流モニュメントは「水の生まれる所、川の始まる所」ということから、0から一滴のしずくが流れ出る様子を表したものです。

源流碑是那賀川の自然石が使われており、町道剣山線（剣山スーパー林道）の剣山トンネル西側出口付近の広場に設置され、源流碑開きなどが行われております。



那賀川源流位置図



源流モニュメントと源流碑

# ゆきかう那賀川推進会議事務局

国土交通省 四国地方整備局  
那賀川河川事務所

徳島県 県土整備部

阿南市

那賀町